

# 指導資料

鹿児島県総合教育センター

## 総合的な学習の時間 第10号

— 中学校，盲・聾・養護学校対象 —

平成14年9月発行

### 総合的な学習の時間における評価の在り方

#### — 中学校編 —

今年度から総合的な学習の時間が全面実施となり，各学校で，特色を生かした活動が展開されている。評価についても，この時間のねらいを踏まえ，指導と評価の一体化を図りながら，子どもの学びに生きる評価の在り方について各学校で十分に検討し，実施していくことが重要である。

この時間の評価は，各教科・領域と同様に，子どもの学習状況の評価とカリキュラムの評価の両面から考えていくことが大切であるが，本稿では，学習状況の評価を中心に述べる。

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 評価の観点を定めて評価する。

評価に当たっては，何を評価するのかを明確にすることが必要である。学習指導要領のねらいを踏まえて，例えば，「課題設定の能力」「問題解決の能力」「ものの考え方」「学習への主体的，創造的な態度」「自己の生き方」などの学習状況の評価の観点を独自に定めることが重要である。

評価の観点を定めることは，子どもにどんな力を付けたいのかを明らかにすることに外ならない。

##### (2) 学習全体を通して総合的に評価する。

学習状況の評価は，活動の結果だけの評価するのではなく，学習の過程全体を通して，子どもの活動のよさや生き方についての振り返りなどを評価することが大切である。

評価の方法としては，例えば，ワークシート，日記，発表資料などの制作物や子どもの自己評価や相互評価を活用したり，子どもの活動状況を観察して評価したりするなど，適切かつ総合的に評価していくことになる。

##### (3) 学習状況の評価をカリキュラムの評価に生かす。

各学校は，目標や内容を定め，それを基底にして年間指導計画を作成していくことになる。したがって，目標や内容，年間指導計画が，この時間の目指している力を子どもたちに身に付けられるものであるかどうかを絶えず見直し，吟味していく必要がある。そのようなカリキュラムの評価を行うためにも，各学校は子どもたちの学習状況の評価を積み重ねていくことが大切である。

## 2 評価の進め方

### (1) 評価規準を設定する。

ア 評価の観点を設定する。

各学校においては、総合的な学習の時間のねらいを基に、自校の実態を踏まえて育成すべき資質・能力を決定し、評価の観点を設定する必要がある。

評価の観点の例としては、「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」(教育課程審議会答申平成 12 年 12 月)において、次のように示されている。

#### (総合的な学習の時間のねらいを踏まえて)

課題設定の能力，問題解決の能力，学び方，ものの考え方，学習への主体的，創造的な態度，自己の生き方

#### (教科との関連を明確にして)

学習活動への関心・意欲・態度，総合的な思考・判断，学習活動にかかわる技能・表現，知識を応用し総合する能力 など

#### (各学校の定める目標や内容に基づいて)

コミュニケーション能力，情報活用能力 など

イ 学年ごとの評価規準を設定する。

それぞれの評価の観点において、発達段階の特性や学年の目標や内容に応じて、7 ページの【評価規準表の例】のような評価規準表を各学校が作成する。

そして、このような評価規準表を基に単元ごとの具体的な評価規準を設定していくことになる。

### (2) 単元の指導計画に評価を位置付ける。

単元ごとの具体的な評価規準を問題解決の各段階に位置付け、具体的な評価方法を工夫する。

<第2学年単元名「ふるさとを守ろう」の評価計画例>

	主な学習活動	具体的な評価規準と評価方法
課題設定	1 川の清掃を行う	広い視野に立って 川についての自分の課題を見付けることができる。 (課題設定の能力) 感想カード，ウェビング法，自己評価カード
	2 川についての課題を発表する。	
活動計画づくり	3 調べる内容や方法などの計画を立てる。	活動の広がりを予想して、活動計画を立てることができる。 (問題解決の能力) 活動計画表，自己評価カード
課題追究	4 活動計画に従って、それぞれの課題を追究する。	事象を多面的，多角的にとらえながら考えることができる。(ものの考え方) インターネットなどを活用し、総合的に判断することができる。(ものの考え方) 行動観察，学習ファイル，自己評価カード
まとめ・表現	5 追究活動で分かったことをまとめ、自分の学びを振り返って、自分の実践を見通す。	事実と意見を区別し、自分の考えを明確にしてまとめることができる。(問題解決の能力) 地球的規模で環境問題をとらえ、自分なりの実践を考えることができる。 (自己の生き方) 学習ファイル，感想文 自己評価カード

(3) 活動計画表や自己評価カードを準備する。

子どもが主体的，創造的に学習活動を展開するためには，子ども自身に活動計画を立てさせる必要がある。また，自ら学び，自ら考える力を育てるためには，自らの学習の過程を振り返りながら，学習を進めさせる必要がある。そのために，教師は活動計画表や自己評価カードを準備しておく。

< 活動計画表の例 >

活動計画表 ( 年 組 )			
【自分の課題】(全 時間)			
【調べたい理由】			
調べること	方法	時間	場所等

活動計画づくりの段階においては，「何を，どのくらいの時間で，どこで，どのように追究していくか」が明確になっているかを見取ることが大切である。

また，調べる方法については，体験的な活動も取り入れながら，より一層具体的に計画できるようにする。そのために，教師は，追究活動の広がりや深まりを予想しながら，調べる方法について助言していくことが大切である。

< 第2学年 単元の自己評価カードの例 >

自己評価カード ( 年 組 )		
	観 点	評価
課題設定	調べたいことを見付ける。	
	自分の課題をつかむ。	
活動計画づくり	活動の広がりを考えて活動計画を立てる。	
課題追究	体験的な活動やインターネットにより，適切な資料を収集する。	
	いろいろな視点から，詳しく調べる。	
まとめ・表現	自分の考えを明確にしてまとめる。	
	適切な資料を基に，伝えたいことや自分の考えを発表する。	
	自分のことを振り返り，これからの学習や生活に生かす。	
【学習後の感想】		
-----		

( よくがんばった    がんばった    もう少し )

このような単元の自己評価カードを各段階ごとに記入し学習を進めることによって，子どもは自らの学びを振り返ることができる。その際，教師の評価と自己評価カードの評価とのずれがあった場合，教師は，子どもの評価を見直すとともに，活動のよさを認めたり，それまでの活動の経過を想起させたりすることが大切である。

なお，単元の自己評価カードの外に，毎時間ごとの自己評価カードを作成して，活用する場合も考えられる。

(4) 評価計画に従って学習状況を評価し、  
子どもの学びに生かす。

子どもの活動のよさを認めたり、活動の見直しをさせたりするなどして、子どもの学習を価値付け、問題解決の方向を示唆する。つまり、指導と評価の一体化を図り、子どもの学びに生かすようにすることが大切である。具体的には、次のような教師の働き掛けが考えられる。

【学習意欲が低下している場合】

自分なりの思いや願いを認めながら、課題の見直しをさせたり、活動計画を修正させたりして、問題意識を高める。

【追究活動が進まない場合】

粘り強く活動するように励ましたり、他のグループの調べ方を紹介したりして、追究活動への見通しをもたせる。

【意欲的に追究活動を行っている場合】

活動のよさを認めたり、課題と関連する情報を提示したりして、活動を連続・発展させる。

(5) 評価の結果を蓄積する。

教師は、一人一人の学習の過程が見えるように、補助簿などにより、日頃から評価の結果を蓄積しておく必要がある。

また、子ども自身も自らの学習の過程を振り返ることができるように、活動計画表や資料、調査メモ、感想文等を学習ファイルにつづっておく必要がある。いわゆる、ポートフォリオ評価は、このような学習ファイルを活用した評価方法の

一つである。ポートフォリオ評価においては、ただファイルするのではなく、蓄積した資料を整理したり、付箋紙に書かれた友達や教師、保護者などのコメントを添付するなど、相互評価を取り入れることが大切である。

(6) 単元の指導計画を見直す。

追究活動の広がりや深まり、学習後の資質・能力の高まりの結果を基に、単元の指導計画の問題点を明らかにする。そして、8ページの【カリキュラムの評価表の例】などを用いて指導計画を見直す。

(7) 評価を通知表や指導要録に記入する。

通知表におけるこの時間の記述の仕方としては、総合所見の欄に記述したり、次の例のように、観点を明示した欄を設けて記述したりする場合などが考えられる。いずれの場合も、補助簿や学習ファイルなどを基に、活動の様子や成果、進歩の状況等について文章で記述する。

【総合的な学習の時間の欄】

観 点	課題設定の能力、問題解決の能力、 ものの考え方、主体的、創造的な態度、 自己の生き方
--------	--

上記の観点の中で、特に顕著な事項があった場合にその特徴を文章で記述する。

また、指導要録の記入の仕方については、指導の目標や内容に基づいて定めた評価の観点を記入し、子どもの学習状況における変容や進歩など、その特徴を具体的に表すなど、子どもにどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

### 3 展開例

ここでは、指導と評価の例を、A中学校第2学年単元名「町の未来を考えよう」における課題設定の段階で述べることにする。

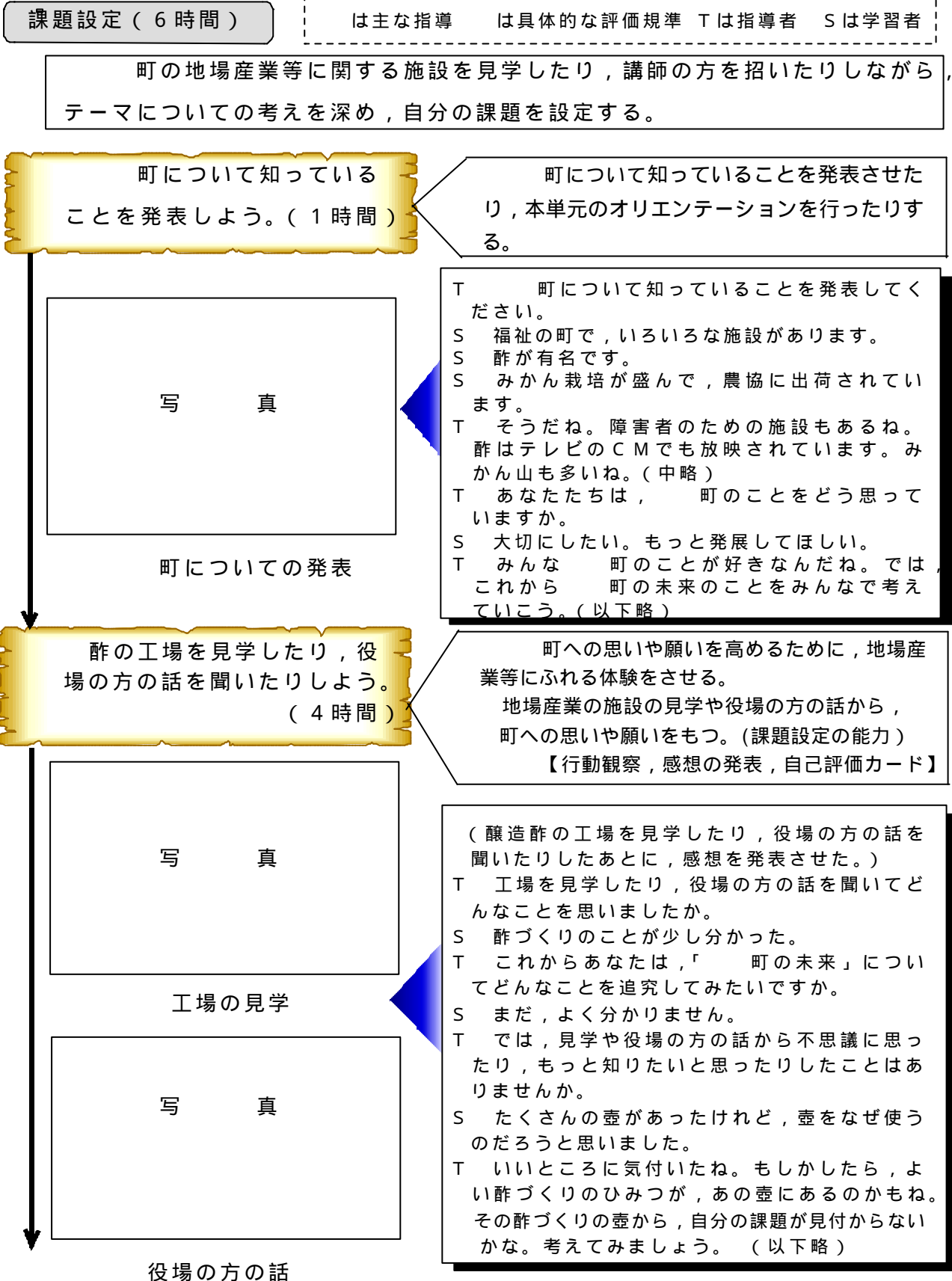
#### (1) 評価計画

単元名「町の未来を考えよう」(全35時間) ( )の数字は時数

学習過程	主な学習活動	具体的な評価規準と主な指導 ( は主な指導 は具体的な評価規準)	主な評価方法
課題設定 (6)	<p>1 町の地場産業に関する施設を見学したり、役場の方の話を聞いたりしながら、テーマについての考えを深め、自分の課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>醸造酢の工場見学</li> <li>役場の方の講話</li> </ul>	<p>オリエンテーションを行う。 町への思いや願いを高めるために、地場産業等にふれる体験をさせる。 地場産業の施設の見学や役場の方の話を通して、町への思いや願いをもつ。 (課題設定の能力) 広い視野に立って、課題を見付けることができるように、町に関する事象を類型化して板書する。 広い視野に立って、町の未来を見通した課題を設定できる。(課題設定の能力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>発表</li> <li>自己評価カード</li> </ul>
活動計画づくり (2)	<p>2 課題ごとのグループで、活動計画について話し合う。</p>	<p>適切な計画が立てられるように、グループで活動の広がりや予想させながら、調べることを、調べる方法、活動の時間や場所等を活動計画表に記入させる。 活動が十分深まるように、事前に交流先との打ち合わせを行う。 町に関する活動の広がりを予想して計画を立てることができる。(問題解決の能力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動計画表</li> <li>自己評価カード</li> </ul>
課題追究 (18)	<p>3 活動計画表に従って、調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の職場での体験</li> <li>役場での聞き取り</li> <li>図書館での調査</li> <li>インターネットでの検索</li> </ul>	<p>活動がスムーズに進められるように、見学する目的を明確にさせたり、見学のマナーについて指導したりする。 活動が十分広がったり、深まったりするように、職場での体験を行ったあとに、調べ学習を位置付ける。 事象を多面的、多角的にとらえながら、地場産業等について考えることができる。 (ものの考え方)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>面接</li> <li>調査メモ</li> <li>感想文</li> <li>職場の人の感想</li> <li>学習ファイル</li> </ul>
まとめ・表現 (9)	<p>4 調べたことを整理し、広幅用紙やパソコン等を使って、グループでまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内での意見交換</li> <li>発表会に向けての準備</li> <li>グループごとの発表</li> <li>全体での意見交換</li> </ul> <p>5 自分の学習を振り返り、自己評価する。</p>	<p>学習の過程を振り返り、自分の考えをまとめることができるように、事実と意見を明確にしながら学習ファイルを整理させる。 情報機器を有効に活用できるように、パソコンやビデオ等を準備したり、操作の仕方について助言したりする。 調べたことの実事と意見を区別しながら町の地場産業等に関する自分の考えをまとめ、表現することができる。 (問題解決の能力) 町とのかかわりを深めながら、将来の自分の姿や生き方を考える。 (自己の生き方)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習ファイル</li> <li>発表</li> <li>自己評価カード</li> <li>感想文</li> </ul>

(2) 指導と評価の実際

課題設定の段階において、評価計画に従って、次のように指導と評価を行った例である。



「町の未来」についての自分の課題を発表しよう。  
(1時間)

的確な課題が設定できるように、友達の課題に対する質問や意見を述べさせる。  
広い視野に立って、町の未来を見通した課題を設定できる。(課題設定の能力)

【課題の発表，自己評価カード】

写 真

T 自分の課題を発表してください。  
S 「酢づくりのこれから」について調べてみたい。  
S 「町の漁業の未来」について調べたい。  
S 「みかんの品種改良と町」にしました。  
S 「50年後の町」について考えてみたい。  
T みんな自分なりの課題を見つけたね。今の友達の課題について質問したいことはありませんか。  
S さんは、なぜ酢づくりについて調べようと思ったのですか。(以下省略)

課題設定

【資料1 評価規準表の例】

B 中学校では、「課題設定の能力」「問題解決の能力」「ものの考え方」「学習への主体的、創造的な態度」「自己の生き方」といった評価の観点から、第1学年と第2・3学年に分けて、次のように評価規準を設定している。

学 年 観 点	第1学年	第2・3学年
課 題 設 定 の 能 力	課題解決の方法や結果を考えながら、自分の課題を見付けている。	広い視野に立って、課題を見付けている。
問 題 解 決 の 能 力	課題解決の方法や結果を考えながら、具体的な計画を立てている。 調べることを明確にして、適切な資料を選んで、情報を収集している。 調べたことを的確に集約し、自分の考えを明確にしてまとめ、表現している。	活動の広がりを予想して、適切な計画を立てている。  広い範囲から適切な資料を選んで、情報を収集している。  調べたことの実事と意見を区別しながら、自分の考えを明確にしてまとめ、表現している。
も の の 考 え 方	事象を構造的にとらえながら考えている。 いろいろな情報を基に、より一層的に判断している。	事象を多面的、多角的にとらえながら考えている。  多面的、多角的な視点から事象をとらえ、総合的に判断している。
主 体 的 な 態 度	自ら問題意識を高めながら、積極的に活動している。 調べた事実を検証しながら、問題を追究しようとしている。	自ら問題意識を高め、活動を見直しながら学習を進めている。 調べた事実を検証し、自分なりに納得しながら問題を追究しようとしている。
自 己 の 生 き 方	より高い目標を目指し、やり抜こうとしている。  事象と自分とのかかわりを深めながら、自分の生き方を考えている。	より高い目標を目指し、着実にやり抜く強い意志をもっている。  事象と自分とのかかわりを深め、自分の将来の姿と関係付けながら、自分の生き方を考えている。

**【資料2 カリキュラムの評価表の例】**

カリキュラムの評価についても，評価の観点を明確にし，学校全体で設定した評価項目に照らし合わせて指導者自身が自己評価や相互評価をすることが必要である。その際，家庭・地域との連携の在り方も考えながら，以下のような評価表を基に評価し，その結果を踏まえて年間指導計画や単元の指導計画の改善を図ることが大切である。

評価の観点		< 観点 1 > 総合的な学習の時間のねらい	< 観点 2 > 家庭・地域との連携
評価項目			
単元の指導計画と評価	単元のねらいや目標	身に付けたい力が明確になっていたか。	家庭・地域の願いを生かしていたか。
	単元設定とその理由	総合的な学習の時間のねらいとの関連が明確であったか。	
	実施予定時期とその時間の配置	題材の内容との関連で適切な時期，時間配分であったか。	学校の計画に協力できる時期であったか。
	題材・学習活動	取り上げた題材・学習活動は，単元のねらいを達成するのに有効であったか。	
	評価	評価の目的や方法，評価の場が明確になっていたか。 学習状況の評価が指導に生かされ，それを蓄積していたか。	保護者や外部人材からの評価を取り入れていたか。
単元の配列・系統	学年の単元配列・系統は適切であったか。 教科等との関連が図られていたか。		
校内の学習環境整備	学校図書館の充実が図れていたか。 情報機器や情報ネットワーク，活動場所の整備はできていたか。 チームティーチング等の協力体制を整えていたか。 学び方コーナーの整備がなされていたか。		
校外で活用した場所・施設等	校外の施設等を効果的に活用できる指導計画になっていたか。	施設・場所等の活用に関しての調整・連絡に問題はなかったか。	
協力を依頼した外部人材	外部人材の協力が効果的に活用できる指導計画になっていたか。	保護者や外部人材にとって負担はなかったか。	

学校全体で，それぞれの学年におけるカリキュラムの評価を基に，教育課程の編成や運営上の視点から，この時間を全体的・総合的に評価していくことも大切である。

〔引用・参考文献〕

文部省『中学校学習指導要領解説 総則編』平成 11 年 9 月

教育課程審議会答申『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について』平成 12 年 12 月

(教育経営研修室)